

川越市初雁公園基本計画（概要説明資料）

歴史が人を結ぶ公園

はじめに

本市は、川越藩の繁栄を引き継ぎ、発展してまいりました。大正11年には県内で初めて市制を施行し、2022年に100周年を迎えようとしております。

この過程において、川越城址には多くの公共施設等が建設され、本丸に位置する初雁公園は、昭和26年に市の都市計画第1号公園として誕生し、野球場、プールなど三世代にわたり、多くの市民に親しまれてまいりました。

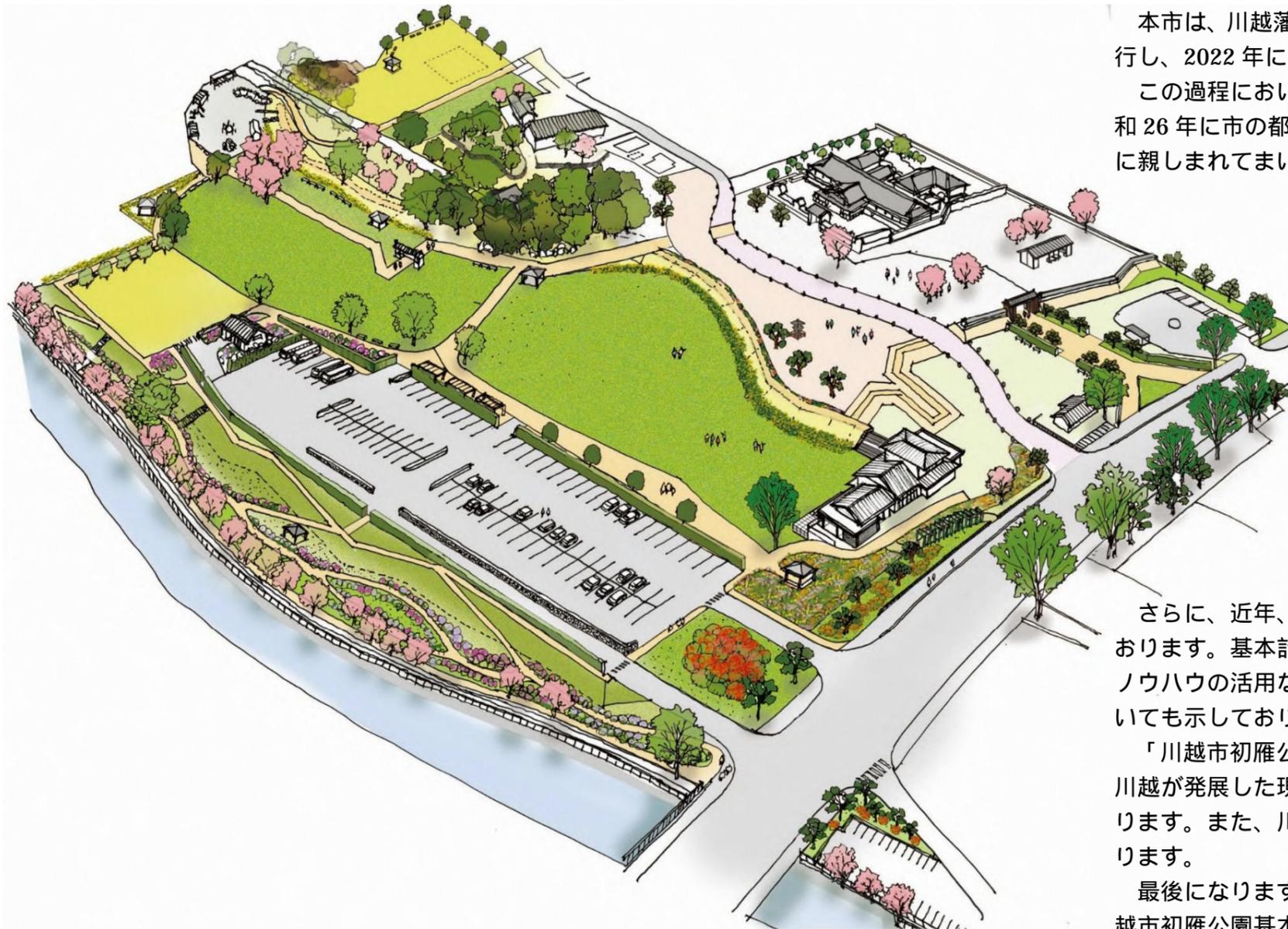
一方で、往時の姿を偲ぶのは、初雁公園内の本丸御殿及び土塁の一部や三芳野神社、富士見櫓跡、中ノ門堀跡など僅かに残すのみとなっております。本市としては、この貴重な財産を守り、将来に受け継ぐため、平成元年に初雁公園の将来像として、城址公園としての夢を描き、このたび、城址公園の実現に向けた「川越市初雁公園基本計画」の策定をいたしました。

基本計画においては、埼玉県指定史跡である史跡川越城跡の約33haを「市民の誇り」、「歴史と観光の拠点」と位置づけ、その中心が初雁公園としたうえで、公園のテーマを『歴史が人を結ぶ公園』としました。文化財的価値を守りながら、歴史を学び、体感する場とするとともに、城下町である中心市街地との回遊性を高め、人の流れをつくるにぎわいの場としても活かしてまいります。また、市街地において貴重な緑のオープンスペースであることから、市民の憩いの場とするとともに防災にも寄与する公園としてまいります。

さらに、近年、公園は多く市民に活用されるよう、質の向上や維持管理運営面が課題となっております。基本計画においては、利活用を見据えた計画とするとともに、多くの市民の参加や民間ノウハウの活用などで、公園を効果的に運営し、経営（マネジメント）していくしくみや体制についても示しております。

「川越市初雁公園基本計画」は川越城・川越藩の中世から江戸までの約415年、城下町を基盤に川越が発展した現在までの約150年を振り返り、あらたな未来に向けてそのスタートをきるものであります。また、川越のアイデンティティを過去・現在・未来の積み重ねで築きあげたいと願っております。

最後になりますが、本計画策定にあたり貴重なご意見をいただきとりまとめたいただきました「川越市初雁公園基本計画審議会」の委員の皆様には厚く御礼申し上げます。



【川越市初雁公園基本計画鳥瞰図】

平成31年3月

川越市長 川合善明

1. 計画の目的等

1-1. 計画の目的

本計画は、初雁公園について、川越城址に位置する公園として、歴史的遺産を活用した川越市の歴史拠点と新たな観光拠点等として整備するために、平成元年に策定した「初雁公園整備基本構想」をもとに、慶応3年頃の川越城図を基本として、実現可能な城址公園計画に見直すことを目的とする。

初雁公園整備基本構想は、現初雁公園、県立川越高校、民有地を含む範囲の13.5haを城址公園として整備する構想で平成元年に策定したもの



図 川越城址整備検討範囲、初雁公園整備区域及び周辺区

1-2. 計画の進め方

本計画は基本構想の見直しにあたり、まず川越城址全体(約33ha)における整備の基本的な考え方を整理したうえで、この考え方を踏まえ、初雁公園整備区域(約5ha)を対象範囲とし、初雁公園基本計画を検討した。

2. 前提条件等

2-1. 史跡川越城跡の本質的価値の保全活用

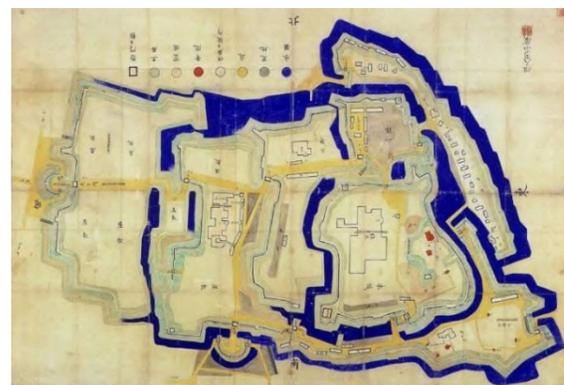
初雁公園は、埼玉県指定史跡川越城跡に位置しているため、史跡の本質的価値を保全活用する。

本質的価値

川越城は、関東の戦国時代の中心的な城の一つであり、埼玉県を代表する近世城郭でもある。旧城内には往時の姿を留める遺構が遺存しており、貴重な城郭遺構群として評価することができる。

【本質的価値】

- 中世から近世に至る城の遺構が、良好な状態で地上および地中に遺存していること
- 城の鎮守としての三芳野神社と社叢・参道及び周辺の土塁群に城址としての景観を留めていること
- 国内に2例のみ現存する本丸御殿が史跡内に残っていること
- 城及び城下町の絵図に記された筆割等が現在でも残っていること



図：川越城図で慶応3年(1867)頃のものである。この絵図を基準として公園計画の検討を行う

2-2. 川越城の歴史

長禄元年(1457)扇谷上杉氏の命により太田道真・道灌らが城を築いたが、当初の規模は本丸と二ノ丸を合わせた程度と想定されている。川越は江戸に最も近い城であったため、家康の重臣酒井重忠が配され城下町川越の基礎がつくられはじめた。老中松平信綱が川越城主になり、慶安3年(1650)から本格的に城の改修がはじまって明暦2年(1656)頃までに完成した。松平齊典の天保12年(1841)に石高17万石となり、嘉永元年(1848)には、巨大な御殿建築である本丸御殿を完成させた。その後17万石の石高は松平直克の時代の慶応2年(1866)まで続いた。本丸御殿竣工から20年、川越城は城としての役目を終えた。明治3年(1870)頃から城郭の廃棄が始まり、明治中期には旧城内のほとんどの土地が払い下げを受けて民有地化した。川越城跡内には、官公庁施設、学校等が建設され、本丸周辺には初雁公園が整備された。現状、本丸御殿の一部、土塁、富士見櫓跡、中ノ門堀跡等の遺構が残っている。



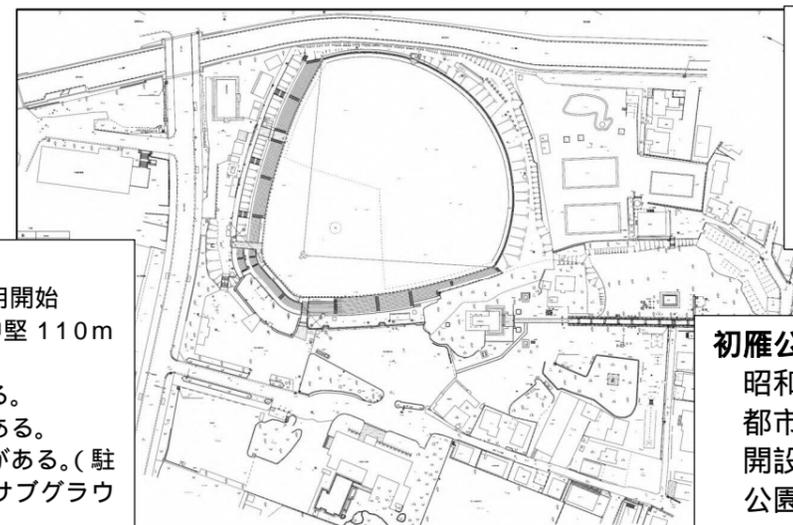
図 川越城図をもとにした現況図との重ね図 出典：「川越城」- 描かれた城絵図の世界 - 川越市立博物館

指定文化財

種別	名称	指定年月日
県指定史跡	川越城跡	大正14年3月31日
県指定建造物	川越城本丸御殿及び家老詰所	昭和42年3月28日 平成3年3月15日
	三芳野神社殿及び末社蛭子社・大黒社 付 明暦二年の棟札一枚	昭和30年11月1日 平成4年3月11日
市指定史跡	三芳野神社	昭和33年3月6日

2-3. 初雁公園の現況等

初雁公園は、川越市の第1号の都市計画公園であり、当時、県下最大の野球場、プール等がある運動公園として、戦後復興の失業対策事業として進められた。



初雁公園野球場

昭和27年供用開始
両翼91m、中堅110m
【課題】
老朽化している。
球場が狭隘である。
運営上の課題がある。(駐車場が狭い、サブグラウンドがない)

初雁公園水泳プール

昭和26年供用開始
大・中・小プール、幼児プールがある。
【課題】
老朽化している。
利用者が減少している。

初雁公園概要

昭和26年11月都市計画決定
都市計画決定面積 4.8ha
開設面積 4.5ha
公園種別 運動公園

文化財、野球場、プール、遊具広場が混在している状況である。

3 川越城址整備の基本的な考え方

初雁公園基本計画の検討にあたり川越城址の整備の考え方について整理した。

川越城址については、史跡としての本質的価値を守っていくとともに、本市の歴史拠点とするため、初雁公園をセンターとして、富士見櫓跡、中ノ門堀跡等の他の遺構等と連携を図っていく。

また、本計画においては、広く面的に整備するのではなく、面（公園）と点（標柱等）を線（道路）でつなぐことで連携を図る。また、連携を図るエリアを城址公園として考える。（青線）

将来的には、川越城城址全体にエリアが広がるように整備をし連携を図っていく。

また、観光拠点として他の観光拠点との回遊性を高めていく。

【川越城址整備の基本的考え方】

1. 史跡川越城跡の本質的価値を守り、活かす。
2. 史跡川越城跡を川越市の歴史シンボルとする歴史拠点とし、城址公園によって具現化していく。
3. 城址公園が史跡川越城跡を中心市街地の歴史的文化的遺産とつなげる新たな観光拠点とする。
4. 初雁公園が、歴史拠点となる史跡川越城跡と、観光拠点となる城址公園の中心的な役割を担う。
5. 史跡川越城跡の遺構の顕在化を行い、長期的に川越城の総構の周知を図る。

富士見櫓跡

富士見櫓跡は、二段の段丘から成る方台状の地形を残し、日本丸曲輪の南西隅に位置し、櫓跡の南側に堀跡、北側に土塁の一部が残り、曲輪の面影を感じさせる空間となっている。

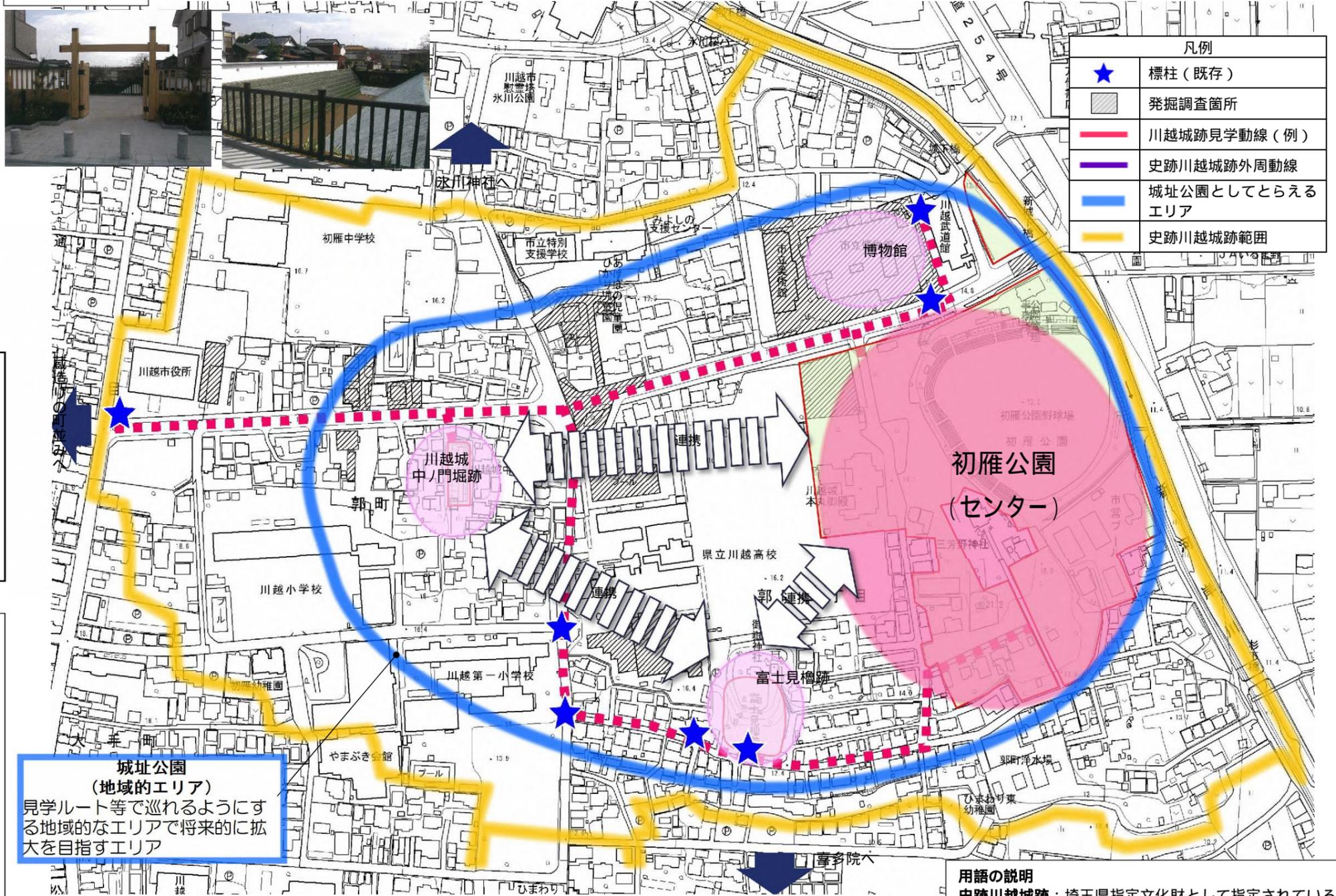


櫓（梁間 10.36m、桁行 11.33m、高さ 10.91m）は消滅している。

富士見櫓について

- ・富士見櫓がいつ頃創建され、どのような変遷をたどったかは、資料が少なく不明である。
- ・前橋市多加谷家に伝わる図面が、「前橋城御門再築設計図」として前橋市立図書館に収蔵されており、多加谷家は、松平大和守の家臣であり、各図に記載されている櫓・門の名称が全てかつて川越城内に存在したものと合致していることから川越城の可能性が高いと考えられる。
- ・平成 17 年に基本設計を行い富士見櫓の復元イメージ図が作成されたが、復元には、史跡としての本質的価値を有する遺構である櫓台を破壊しなければならないなど、史跡の保全等に係る諸課題がある。

川越城中ノ門堀跡



凡例	
★	標柱 (既存)
■	発掘調査箇所
— (赤点線)	川越城跡見学動線 (例)
— (青線)	史跡川越城跡外周動線
— (青線)	城址公園としてとらえるエリア
— (黄線)	史跡川越城跡範囲

城址公園 (地域的エリア)
見学ルート等で巡れるようにする地域的なエリアで将来的に拡大を目指すエリア

川越城址整備に係る主な整備内容

- 初雁公園の整備・・・城址公園エリアのセンター施設として相応しい公園の整備を行う。
- 富士見櫓跡の整備・・・櫓台の文化財保護等に関する諸課題を踏まえ、櫓台と富士見櫓の復元のあり方やVR・AR等の技術の活用などの方法について検討した上で櫓跡の整備を検討し進めていく。
- 回遊路の美化・・・公園、遺構をつなぐルートを設定し、回遊路の美化等を行う。
- 遺構のサイン、表示・・・遺構の発掘調査等を基にサイン等の増強を行っていく。
- その他・・・AR等の技術活用に伴う整備や公有地における城址公園化等

これらの整備を進めて行くことで、長期的には、川越城址全体の総構を体感できるような整備を進めていく。

用語の説明
史跡川越城跡：埼玉県指定文化財として指定されている名称
川越城址：川越城の跡地の通称（史跡川越城跡とほぼ同義）
城址公園：史跡川越城跡のうち遺構を顕在化し、見学ルート等で巡れるようにする地域的なエリアで概念として示したものの（現状、初雁公園、中ノ門堀跡、富士見櫓跡の川越城遺構及び博物館を含む区域として、今後、新たな遺構が顕在化した場合には拡大していく区域）
初雁公園：都市計画決定された現公園で、都市公園法に基づく公園の名称
歴史公園：都市公園の種別の一つ（特殊公園の一つの類型で、史跡の保存活用により歴史の継承を目的として設置される公園）

4. 初雁公園基本計画

4-1. 初雁公園整備基本方針等

川越城址整備の基本的考え方を踏まえ、初雁公園整備基本方針は以下のとおりとする。

1. 初雁公園内の史跡川越城跡の本質的価値を守り、活かす。

本質的価値を市民が学び、体感できるようにする。

2. 歴史拠点の中心を担う初雁公園を、歴史公園として再整備する。

- 史跡川越城跡の中心的役割を担うために、「運動公園」から、「歴史公園」として再整備し、中ノ門堀跡と富士見櫓跡の他川越市立博物館と連携する。

3. 市街地の貴重な緑のオープンスペースである初雁公園を市民の憩いの場としていく。

- 市民の憩いの場としていくとともに、災害時には、防災に寄与する施設とする。

4. 観光拠点となる城址公園の中心を担う初雁公園を、回遊性を強めるにぎわいの場として再整備する。

- 初雁公園を新たな川越の入口として、観光客を呼び込み、回遊性を強めていくことで、中心市街地との人の流れをつくるとともに、魅力的なプログラムを提供することで、にぎわいの場とする。

5. 将来の状況変化への対応と実現性を踏まえた整備とする。

- 実現性を踏まえ、短期、中期、長期の段階的整備をする。

初雁公園のテーマ

歴史が人を結ぶ公園

初雁公園整備基本方針と初雁公園のテーマをもとに、初雁公園が目指す姿をどのように実現化させていくかという方向性を示した初雁公園の整備コンセプトは、以下のとおりである。

初雁公園整備コンセプト

時を紡ぎ

川越城・川越藩の415年、近世城下町を基盤とした近現代の150年の歴史の糸を紡ぎ

時を織りなす

公園を舞台に積層された地歴を顕在化し、現在から未来に向けて織りなす

時の公園

415年と150年の歴史を再考し、100年先に向けてゆるぎない川越のアイデンティティを築き上げる公園

4-2. 初雁公園利活用計画

コンセプトを踏まえ、初雁公園の利活用計画の体系は次のとおりとした。

時を紡ぎ

- 歴史の糸を紡ぎ

：史跡川越城跡の本質的価値を伝えるとともに、川越城・川越藩の歴史と近世城下町形成から近現代の川越のまちづくりなどの歴史もあわせて伝える。

見学・学習、まち歩き、講座、人材育成、伝統芸能等に係るプログラム

時を織りなす

- 現在から未来に向けて織りなす

：歴史の価値や景観を活かしつつ、川越のまちの魅力を高める場として公園を活用する。また、市街地の貴重な緑のオープンスペースを、子どもからお年寄りまで様々な活用できるようにする。

イベント、スポーツ大会、季節感・風景、子育て・学習、健康、散策・休憩に係るプログラム

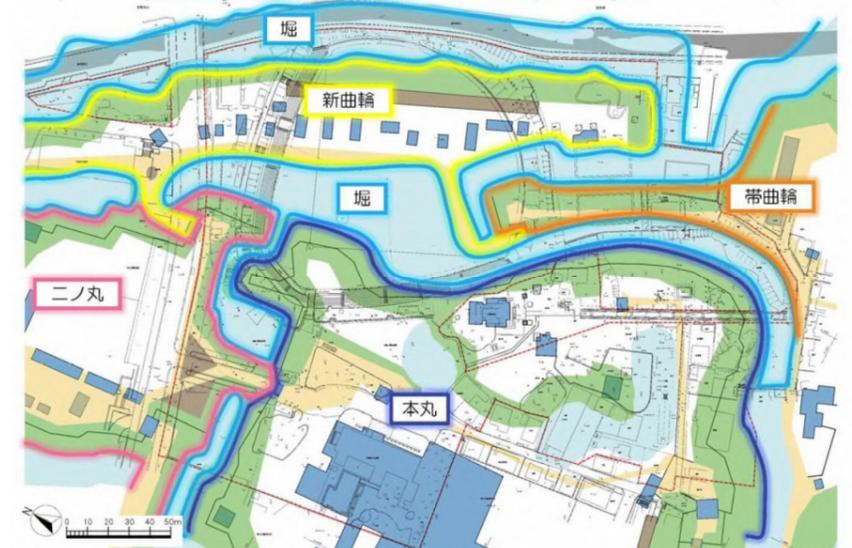
時の公園

4-3. 初雁公園平面計画（ゾーニング）

初雁公園の平面計画においては、慶応3年当時の川越城の縄張りを基本として、遺構等の確認を行い、利活用を踏まえて設定した。

(1) 初雁公園の縄張りの区分

初雁公園については、郭（曲輪）の配置など城の川越城址の姿をもとに、初雁公園内での縄張りの区分を本丸、二の丸、帯曲輪、新曲輪、堀に区分した。



(2) 遺構の保存活用

縄張りの区分毎に遺構の状況を確認すると本丸には、本丸御殿、土塁、三芳野神社等の多くの地上遺構が残っているが、その他については、地上部は改変されている。

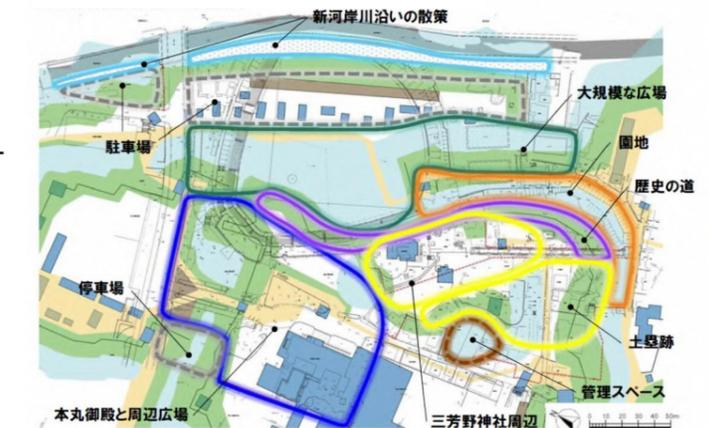
したがって、遺構等の保存活用については、本丸は「遺構等の保存と旧状復元」その他は「遺構等の視覚化と活用」を行う。



遺構等の保存活用のエリア



公園利活用区分の適地抽出



(3) 公園利活用の区分と適地

縄張り、遺構の状況等を踏まえたうえで、公園の利活用するために必要な施設及び適地は次のとおり主なもの

- 本丸御殿の見学、集合場所、イベント活用のため
本丸御殿の周辺広場
- 様々なイベントやスポーツ大会の活用
大規模な広場

4 - 4 . 初雁公園基本計画説明図

芝生広場

芝生広場は、堀跡の形となっており、低くすることで堀がイメージできるようにする。また、イベント等の利用が可能な大規模な広場とする。
(約 1ha 程度)

新河岸川沿い散策路

新河岸川沿いに散策路を設ける。
また、桜が楽しめるようにする。

駐車場

初雁公園には多くの利用が想定される。かつて、馬場であった場所に、駐車場を設置する。また、一部は、多目的広場とし、繁忙期は臨時駐車場とする。駐車台数は公園全体で 188 台、大型バス 7 台としている。

遊具広場の整備

地元の利用に供する遊具広場を設ける。

土塁の保全

現存する土塁について保全し、学習の場として活用する。

公園のゾーニング

公園のゾーニングにあたっては、川越城の郭の形を尊重して検討している。

案内所、カフェの設置

案内所を設置し、公園利用や街歩き等のサポートをする。
また、カフェを設置し、市民が歴史にふれあいながら、休息できる場所とする。

市道 1225 号線の付替、美装化

本丸御殿前に広いスペースを設置するため、現在、本丸御殿前にある道路の位置を変更する。
また、舗装については美装化する。

北門、土塁の復元

発掘調査等に基づき、北門、土塁の復元を検討し、かつての本丸の趣を整備する。

本丸御殿前に広いスペースを確保

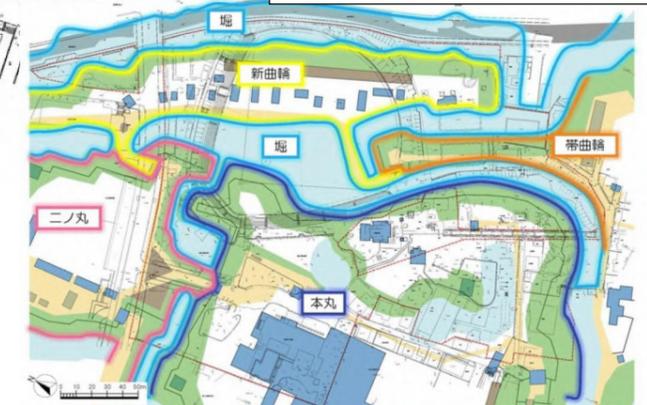
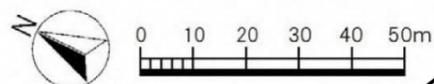
本丸御殿周辺に広場を確保し、風格を高めるとともに、見学環境の向上を図る。

短期整備の範囲 (赤破線)

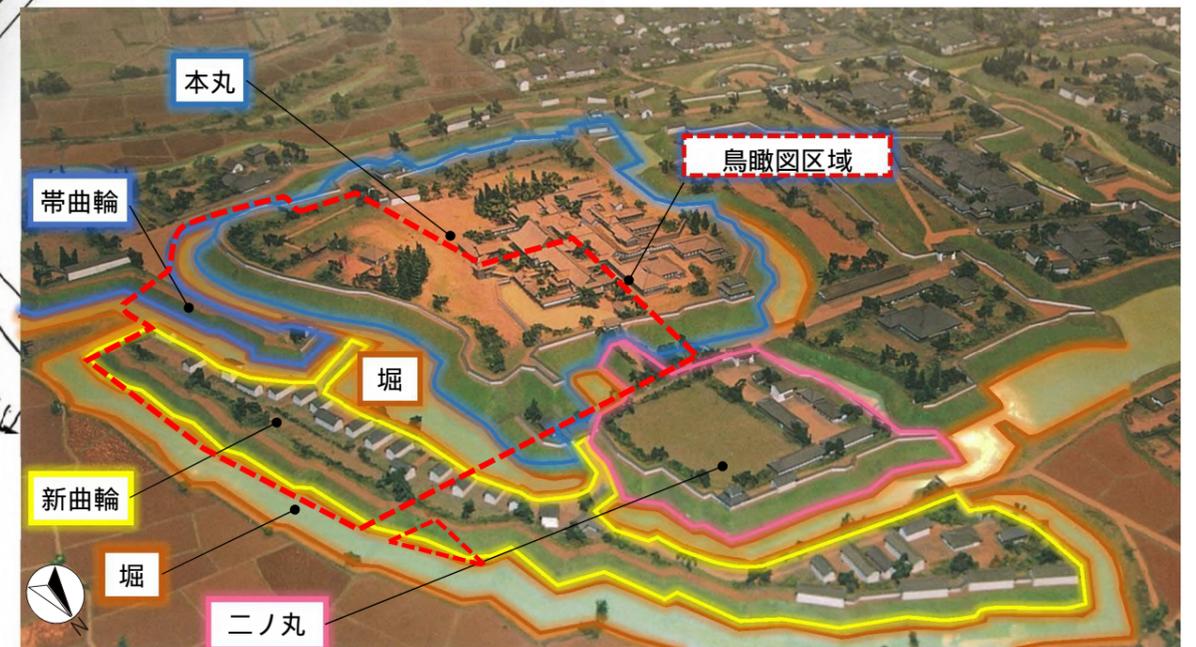
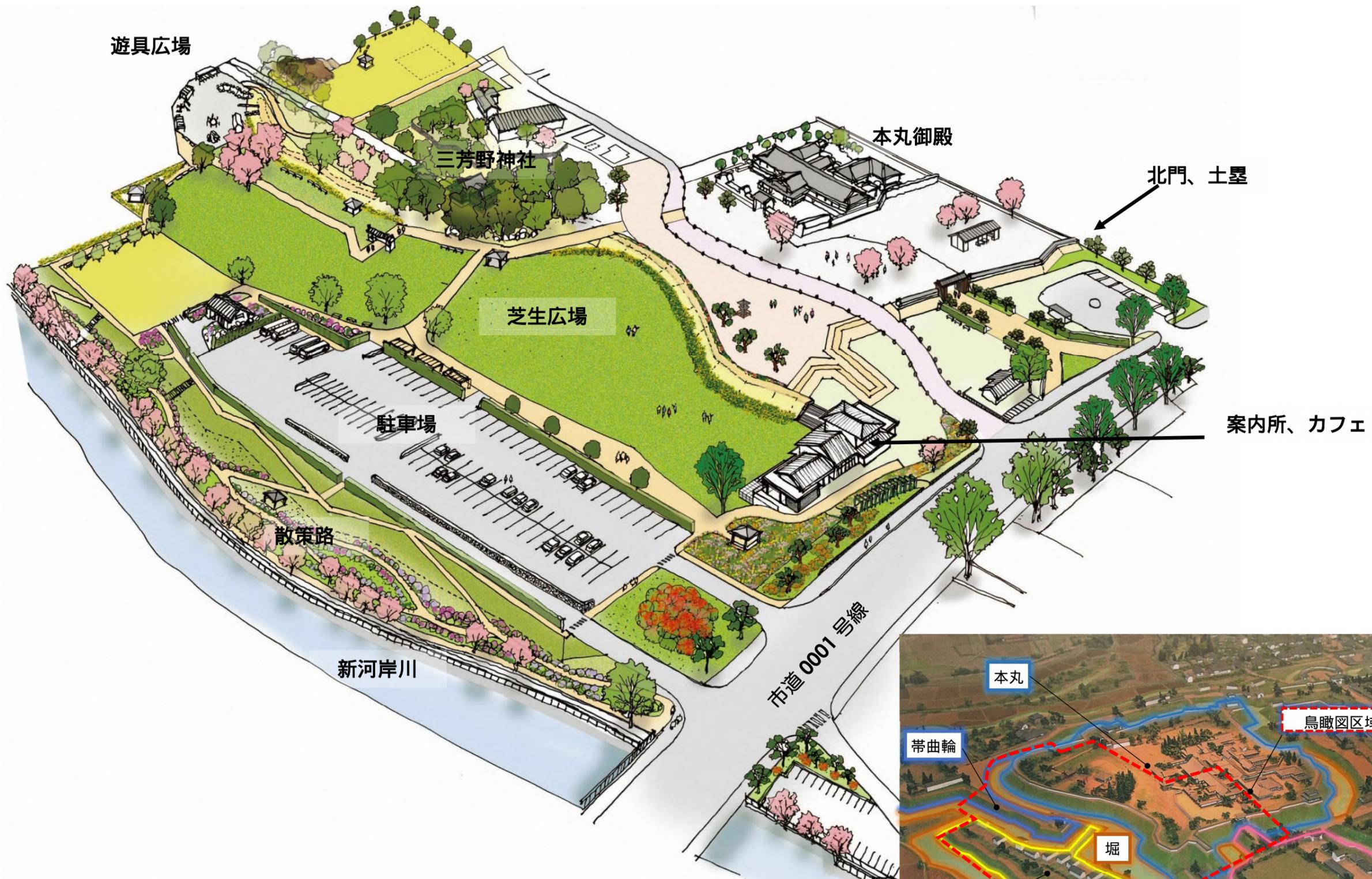
市制施行 100 周年を目標に整備する。

本丸御殿前の堀の復元

発掘調査等に基づき、絵図にある堀の復元を検討し、かつての本丸の趣を整備する。



4 - 6 . 初雁公園基本計画鳥瞰図



出典：「川越城 - 描かれた城絵図の世界 - 」平成 23 年 3 月 川越市立博物館に一部加筆、北東から

4-7. 初雁公園運営・維持管理方針

1. 初雁公園が城址公園の中心として、史跡川越城跡の学習の場の中核的役割を果たす。
2. 初雁公園を舞台に市民が主役となって川越のアイデンティティを築き上げていくために、市民参画を進める。
3. 初雁公園が城址公園の中心として、回遊性を強め、にぎわいを創出する場としての役割を果たす。
4. 初雁公園が多様な運営管理へ対応するために、持続発展的にマネジメント力を高めていく。
5. 初雁公園のマネジメント力を高めるための官民連携による事業手法や管理運営手法の導入を検討する。

(公園マネジメントについて)

公園マネジメントとは、公園の特性を踏まえた目標を定め、その目標に向かって、公園を運営していくということである。

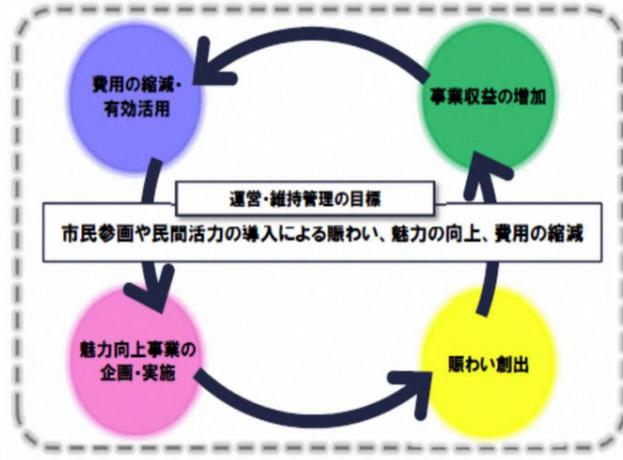
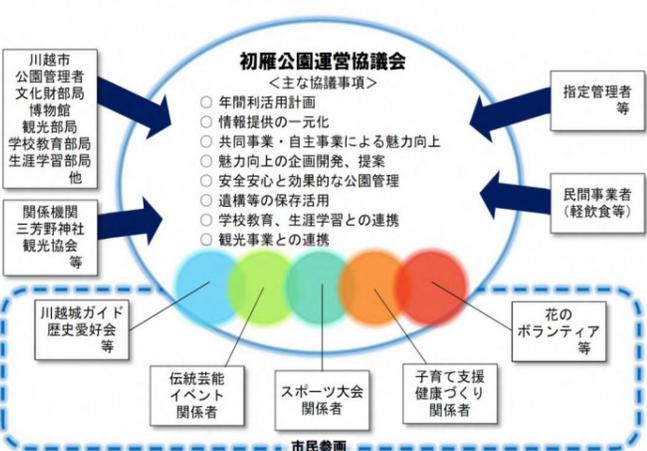
社会的背景としては、人口減少社会と高齢化社会の到来により、公園に期待される社会的ニーズは変わりつつある一方で、公園管理にかかる費用は縮減され、公共だけで公園管理を担うことが困難になりつつあることなどがあげられる。

公園政策についても、これまでの公園の量を増やし存在価値を高めることから、各々の公園が保有する特性などを活かし利用価値を高めていくことへの転換が必要となる。また、公共が支出する管理費の縮減についても同時に進めていくことが必要となる。

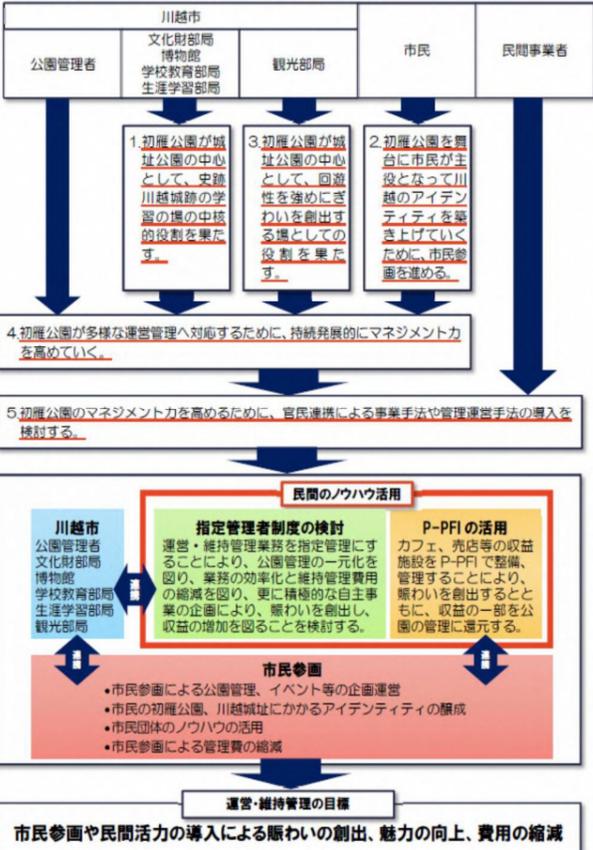
このためには、官民連携の促進として、市民参画、民間活力の導入による、公園の有効活用、魅力向上、賑わい創出、事業収益の増加の連鎖により好循環を生み出すことが重要であり、その好循環が持続発展的に展開されるようなマネジメントを行うこと必要である。

初雁公園マネジメントにおいては、初雁公園整備基本方針にある理念を共有し、市民参画や民間ノウハウを活用しながら、「初雁公園独自の公園マネジメントモデルを作り上げていこう!」とする機運が醸成されていくことが必要である。

■ 公園マネジメントをすすめる運営協議体制イメージ



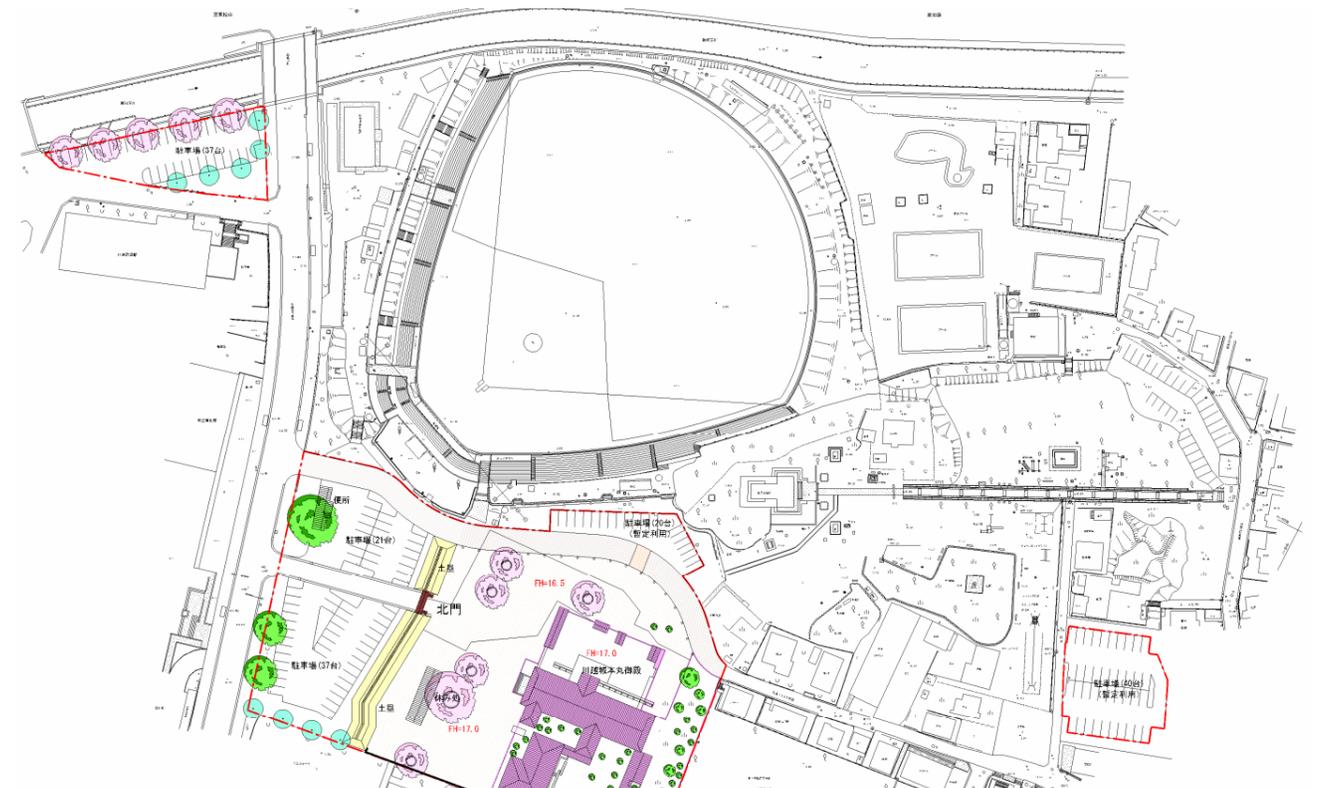
■ 運営・維持管理のわらいを達成する各主体の役割と運営・維持管理方針との関係



5. 初雁公園及び川越城址の段階的整備

初雁公園及び川越城址の整備については、実現性を踏まえ段階的整備を行う。

	短期(3年)	中期(概ね10年程度)	長期
年次	2019年~2022年 ・市制100周年を目標年次とする。	2023年~2032年 ・初雁公園の全体整備の年次とする。	2033年~ ・市制100周年から次の100年に向けた基本姿勢を示す。
川越城址整備の目標	・史跡川越城跡の地上遺構や城址の痕跡の情報発信、見学などで、市民の関心を高める。 ・初雁公園をセンターとして川越城中ノ門掘跡と富士見櫓跡と連携した城址公園を発信する。	・史跡川越城跡のその他の遺構の顕在化を図り、更に城址公園を拡大展開する。	・史跡川越城跡全体をネットワーク化し、発掘調査等の結果の内容を踏まえた上で、川越城の総構が視覚できるような整備を推進する。
川越城址の整備	・初雁公園の本丸御殿周辺の整備を行う。 ・富士見櫓跡を安全に見学できるように環境整備を行うとともに、富士見櫓跡の整備方法の検討を進める。 ⁽¹⁾ ・城郭等をめぐるルートを設定し、サイン等の整備を行う。	・初雁公園について公園整備を完成させる。(一部復元建造物を除く) ・富士見櫓跡の整備を行う。 ⁽¹⁾ ・遺構の発掘調査等の結果等を基に、サイン等の増強を行う。	・帯郭門等の復元整備を行う。 ・回遊路の美装化等の整備を行う。 ・公有地における城址公園化や遺構についてサイン等の増強を行う。 ・VR・AR技術等の活用に伴う整備も行う。
初雁公園整備の目標	・歴史拠点の中心を担う初雁公園の中核となる川越城本丸御殿の風格を高め、歴史公園への舵をきり、市民の関心を高める。	・運動公園機能を移転・廃止し、歴史公園としての公園整備を完成させる。(一部復元建造物を除く) ・市民が運営に主体的にかかわっていく。	・川越城址のセンター機能を強め、川越城の総構の周知を図る。 ・発掘調査の成果の反映や外部条件の変化に応じた整備を行う。
初雁公園整備	・本丸御殿玄関の旧状の復元と、北門、土塁の遺構復元により本丸御殿周辺の趣きを整え、北門周辺も暫定整備する。	・運動施設を移転・廃止し、短期整備を除く公園全体の整備を行う。 【新初雁公園の全面的供用開始】	・帯郭門等の復元を行う。



初雁公園短期整備イメージ